【地球環境科学専攻　地球惑星科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地球環境システム学	高野　雅夫 ※	教授	「千年持続可能」な地球・社会システムを構想する。マイクロ水力発電や地中熱利用，木質バイオマスエネルギー等小規模自然エネルギー技術の開発と，それらを活用した中山間地域の地域再生など。	masao(at)nagoya-u.jp
	平野　恭弘	教授	森林の地下部生態系（樹木根や森林土壌）システムを生態生理学的視点から解明することを目指す。特に樹木根の炭素循環への貢献度や酸性化に伴う影響程度を明らかにする。	yhirano(at)nagoya-u.jp
地質・地球生物学	道林　克禎	教授	・地殻とマントルの構造敏感性と地震波特性の研究 ・断層岩のレオロジー研究 ・海洋リソスフェアの地質学的研究～深海底調査～	michibayashi(at)nagoya-u.jp
	高橋　聡	准教授	・生物大量絶滅イベントとその後の回復過程の実態解明 ・堆積岩・堆積物中の化石や化学組成を用いた地球環境変動史の解読	stakahashi(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	マーク アンドレ ハンブレ Marc Andre Humblet	准教授	・新生代の海水準および気候変動に対する太平洋域の造礁性サンゴの環境応答に関する研究 ・造礁性サンゴ化石の形態分類基準の確立	mhumblet(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	纐纈　佑衣	准教授	・分光法を用いた岩石の分析手法の開発 ・変成岩・変質岩の形成条件についての研究	kouketsu.yui(at)nagoya-u.jp
	林　誠司	講師	・軟体動物の系統進化と多様性についての研究 ・現生種と化石種を用いた地学，生物，環境教育プログラムの開発	seijih(at)nagoya-u.jp
	志村　侑亮	講師	・地質調査および地質図作成 ・白亜紀～古第三紀の東アジア東縁部沈み込み帯におけるテクトニクス ・付加体および高圧型変成岩類に認められる断層の運動像	shimura.yusuke.p7 (at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

【地球環境科学専攻　地球惑星科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地球化学	三村　耕一	教授	・高温高圧環境における有機物の安定性の研究 ・惑星形成にともなう揮発性元素の挙動ならびにその同位体挙動の実験的検証 ・初期地球における生命の起源・進化の解明	mimura(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	平原　靖大	准教授	星間分子・惑星大気の赤外線・電波領域での観測，そのための新しい観測装置の開発と，宇宙化学において重要な，短寿命分子種の実験室での生成と高分散スペクトルの研究を行っている。	yasu(at)nagoya-u.jp
	淺原　良浩	准教授	地球科学試料の金属元素同位体の分析とその応用に関する研究 ・海洋堆積物や沈降粒子を用いた海洋物質循環の解明 ・石灰岩などの堆積岩を用いた過去の地球表層環境の解明 ・火成岩および鉱床の年代測定および成因解析	asahara(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	橋口　未奈子	准教授	・地球外有機物の形成や進化過程の解明 ・初期太陽系における，有機物，水，鉱物の相互作用，物質進化に関する研究 ・有機物の化学分析，定量分析法の改良・開発	hashiguchi.minako.i5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
地球惑星物理学	渡邊　誠一郎	教授	惑星系形成・地球初期進化・生命の起源に関する理論的研究： 太陽系及び太陽系外の惑星系がどのように形成され，進化したかを，素過程の物理を検証しつつ数値シミュレーションや小惑星探査データを元に解明する。	seicoro(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	熊谷　博之	教授	・火山で発生する地震や振動現象の震源過程と噴火の発生メカニズム ・アジア・太平洋地域の沈み込み帯における巨大地震の発生過程 ・地震学的手法を用いた火山および地震モニタリングの高度化	kumagai(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	城野　信一	准教授	・惑星系形成過程における物質進化の数値シミュレーション ・小惑星，彗星核など太陽系小天体の進化に関する理論的研究	sirono(at)eps.nagoya-u.ac.jp
	並木　敦子	准教授	・火山、地震、地球内部のダイナミクスを可視化して理解する模擬実験 ・気泡と結晶を含む高温マグマなど、複雑な物質の粘弾性測定 ・間欠泉など火山・熱水地帯の観測、物質科学、理論をあわせた研究	namiki(at)eps.nagoya-u.ac.jp
生態学	杉谷　健一郎 ※	教授	西オーストラリア・ピルバラクラトン、南アフリカ・カープヴァールクラトンを主なフィールドとして、初期地球（太古代）における生物相の姿と生態系、そしてそれらの進化と表層環境との関係について研究している。	sugi(at)info.human.nagoya-u.ac.jp
	依田　憲	教授	・動物行動学，進化生態学，環境生態学 ・バイオロギングを用いた野生動物の遠隔追跡 ・動物生態，行動，生理，進化，環境の階層を繋ぐ統合的理解	yoda.ken(at)nagoya-u.jp
	庄子　晶子	教授	・行動生態学，環境生態学，野生動物学 ・渡り，鳥類，汚染物質，バイオロギング，国際共同研究 ・繁殖モニタリングと行動追跡を用いた生活史戦略の解明	akiko.shoji(at)nagoya-u.jp
	後藤　佑介	准教授	・動物行動学，数理生物学，統計学 ・野生動物の行動データと数理・統計モデリングを用いた、動物の移動戦略の解明	goto.yusuke.w5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

【地球環境科学専攻　地球惑星科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地球惑星ダイナミクス	鷺谷　威	教授	・島弧リソスフェアの変形過程の理論的・観測的研究 ・地震発生サイクルと断層すべり挙動に関する研究 ・地殻変動に基づく日本列島の地震，火山，テクトニクスの研究	sagiya(at)nagoya-u.jp
	渡辺　俊樹	教授	・物理探査による地下構造と物性の可視化，モニタリング手法の開発 ・地震波動場解析による地震・火山現象発生場の解明 ・地下構造の物理探査のエネルギー資源・環境・防災など諸問題への適用	watanabe(at)seis.nagoya-u.ac.jp
	寺川　寿子	教授	地震発生のメカニズムの解明に関する研究 ・地震を引き起こすテクトニック応力場の研究 ・地震の発生における間隙流体の役割に関する研究 ・地震と火山噴火の相互作用に関する研究	terakawa(at)seis.nagoya-u.ac.jp
	田所　敬一	教授	・海底地殻変動観測システムの開発およびそれを用いた観測 ・地震学的手法による断層破砕帯の構造およびその時間変化に関する研究 ・地震波解析による地殻内不均質性に関する研究	tad(at)seis.nagoya-u.ac.jp
	橋本　千尋	准教授	プレート間相互作用に起因する固体地球表層部の変動現象に関する理論的研究：地震発生サイクルの物理過程，プレート収束帯のテクトニクス，日本列島域の地殻活動シミュレーション等。	hashi(at)seis.nagoya-u.ac.jp
	伊藤　武男	准教授	・数値シミュレーションを用いた地殻活動に関する研究 ・GNSS 観測を用いた電離層・地球潮汐・海洋潮汐に関する研究 ・地殻変動データに基づく地震発生サイクルの理論的・観測的研究	takeo_ito(at)nagoya-u.jp
	前田　裕太	准教授	地震波を用いた火山現象の研究 ・低周波地震の波形解析による火山浅部流体移動の研究 ・人工震源を用いた地下構造の時間変化の研究	maeda(at)seis.nagoya-u.ac.jp
	市原　寛	講師	主に電磁気観測に基づく地殻・マントル構造の研究 ・深海底・陸上・空中からの探査法の開発 ・地震・火山・沈み込み帯における流体分布・地質構造の解明 津波誘導電磁場の研究	h-ichi(at)seis.nagoya-u.ac.jp

【地球環境科学専攻　地球惑星科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地球史学	北川　浩之	教授	宇宙線生成核種（^{10}Be，^{14}C，^{26}Al，^{36}Cl など）は，各種年代測定法に利用できるだけでなく，地球システムの状態や変動の特性を調べるトレサーとして有効です。アジアを主要な研究対象地域とし，湖沼堆積物や考古遺跡の年代測定，またそれらに記録されている環境変動や人類史の解読を行っています。	hiroyuki.kitagawa(at)nagoya-u.jp https://leis21.net/
	南　雅代	教授	・炭素14を用いた地球化学・文化財化学：コンクリート劣化の定量的解析，遺跡から出土した人骨の年代測定，高精度炭素14測定のための分析手法の開発 ・同位体地球化学：Sr 同位体比を用いた古代における人やものの移動の解明，全国地質 Sr 同位体比マッピング，骨の炭素・窒素同位体比を用いた食性解析	minami(at)nendai.nagoya-u.ac.jp
	束田　和弘	教授	フィールドワークを中心に，テクトニクスの研究を行っている。具体的には，ゴンドワナ大陸の形成・分裂からユーラシアの形成に至る過程を，モンゴル，ロシア，南極，日本の地質調査をもとに研究している。	tsukada(at)num.nagoya-u.ac.jp
	加藤　丈典	准教授	・CHIME 年代測定とその応用に関する研究 ・造岩鉱物と電子の相互作用及び X 線分光分析	kato(at)nendai.nagoya-u.ac.jp
	西田　佐知子	准教授	植物の分類学や生態学を研究。とくに近縁な植物の種間相互作用や，植物小器官と動物の相互作用に関する生態学的研究，熱帯産クスノキ科の分類学的研究を行っている。	nishida(at)num.nagoya-u.ac.jp
	藤原　慎一	講師	機能形態学的アプローチから，現生動物の筋骨格形態と，姿勢や運動機能，軟組織形態との関係を探っている。また，その関係を絶滅動物に適用することで，古生態の復元を行っている。	sifjwr(at)num.nagoya-u.ac.jp

※　2028年3月退職予定

【地球環境科学専攻　大気水圏科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地球環境変動論	中塚　武	教授	年輪年代学，とくに樹木年輪セルロースの酸素・水素同位体比の分析による気候変動の復元と，考古学・地質学的手法で得られる出土材の年輪年代決定を通じて，気候変動のメカニズムの解明と，その人間社会の歴史や自然環境の変遷との関係について，文理双方の観点から研究を行っています。主な研究フィールドは，日本各地と，東アジアを中心にしたアジア全域です。	nakatsuka.takeshi.m0(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	植村　立	教授	気候変動のしくみを理解するために，過去に起きた大きな気候変動と，それに伴う長期的な環境の変化を調べています。南極の氷や洞窟の鍾乳石などを対象に，水を介してつながる気候・生物・岩石の関係に注目しています。例えば，鍾乳石の形成には植物や土壌微生物の呼吸による二酸化炭素が関わり，炭素の記録と洞窟観測から生物活動と気候の関係を探ります。また，石に閉じ込められたごく微量の「過去の雨水」の安定同位体比を分析し，鍾乳石を「過去の温度計」として活用するなど，新しい分析技術も開発しています。	ryu.uemura(at)nagoya-u.jp
	坂井　亜規子	准教授	アジア高山域における氷河や氷河湖の変動，氷河からの流出河川流量の変動について，現地観測に基づいた気象（気候）の解析，衛星観測の解析など，様々な手法を使い変動特性を解明することを主としている。	sakai.akiko.f1(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
気候科学	藤田　耕史	教授	ヒマラヤ・チベットなどのアジア高山域における氷河変動を主なテーマとし，観測による実態把握・数値計算による動態予測・氷河コアを利用した環境復元を進めている。	fujita.koji.z1(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	須藤　健悟	教授	大気化学・エアロゾルを軸として，地球環境・気候の変動過程の評価・予測を主に数値シミュレーションにより行っている：⑴全球規模の大気汚染の解明，⑵成層圏／対流圏オゾンやエアロゾル全球分布の変動評価と気候への影響および相互作用の研究，⑶地球システム統合モデルによる地球温暖化・大気環境変化予測など。手法：気候モデル，化学輸送モデル，衛星観測等データ解析。	kengo(at)nagoya-u.jp
	大畑 祥	准教授	気候に影響を及ぼす大気微粒子（エアロゾル）の観測研究を行っています。精密な個別粒子測定を軸として、特に「氷雲の種」となる氷晶核活性を持つ粒子や、太陽光を吸収して大気・雪氷を加熱する光吸収性の粒子に着目しています。急速に温暖化が進行する北極域や、エアロゾルの大発生源であるアジア大陸の下流域などを観測フィールドとし、人為・自然起源のエアロゾルの動態と、それらが雲や気候に与える影響の解明を目指しています。	ohata.sho.u2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

【地球環境科学専攻　大気水圏科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
物質循環科学	角皆　潤	教授	フィールドにおける観測技術と最新の安定同位体分析技術を武器に，陸上や海域の生態系と地球環境との相互作用を理解することに挑戦しています。特に温室効果気体の放出や吸収に関わる（微）生物活動や，環境変化に対する生態系の応答などを中心的な課題に据え，各生物群を地球環境科学に果たす役割から分類する，新しい生物科学の確立を目指して研究を進めています。またこのような研究で培った分析技術を活かして，陸域・海域の火山活動や海底下のメタンハイドレートなどの地球のフロンティア領域を開拓する研究にも挑戦しています。	urumu(at)nagoya-u.jp
	谷本　浩志 ＊	客員教授	専門分野は大気化学，地球化学，環境科学で，「化学」の視点を持ち，地球規模における環境問題，特に大気汚染や気候変動の問題について，フィールド観測やモデルシミュレーション，衛星観測データの解析を通じて取り組んでいます。地球大気化学国際協同研究計画 (IGAC) に深く関わり，持続可能な世界における大気化学の役割を国際的に推進しています。研究指導は，国立環境研究所地球環境研究センター地球大気化学研究室で行います。	tanimoto(at)nies.go.jp
	中川　書子	准教授	地球環境や身の回りの生活環境の変動・変化に大きく関わる環境物質を研究対象として，それらの起源や，地球表層システム（大気・海洋・陸域）における循環速度の解明に挑戦しています。なかでも，人間活動に由来する物質の環境負荷量の定量化やその影響評価を第一の目標としています。このため，単に環境物質の分布やその時間変化を計測するのではなく，それらの自然同位体組成の同時定量を実現することで，より多くの情報を観測から抽出することを目指しています。	f.nakagawa(at)nagoya-u.jp
	渡邊　剛 ＊	客員准教授	専門分野はサンゴ礁地球環境学でサンゴなどの生物源炭酸塩岩に記録される地球環境から推定される過去・現在・未来の像を高時空間解像度で捉えたいと思い、研究しています。一方で、人新世における気候変動と社会変動の相互作用の理解には科学的アプローチのアップグレードも必要であると感じ、科学とアートの融合をテーマにした研究と実践を行っています。	watanabe.tsuyoshi.m6(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	山崎　敦子	講師	海洋表層の約60%を占める低緯度域は貧栄養にも関わらず、世界で最も生物多様性の高いサンゴ礁の海があります。気候変動と低緯度域の物質循環、私たち人間も含めた沿岸生態系の相互関係を理解し、将来の気候変動に対する適応策をサンゴ礁地域に住む人々と共に考えていくことを目指して研究をおこなっています。フィールドワークと、環境変動・生物の応答を読み取るためのサンゴ・二枚貝などの生物源炭酸塩の地球化学分析・構造観察を主な手法としています。	yamazaki.atsuko.x5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

【地球環境科学専攻　大気水圏科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名		指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地球水循環科学	気象学	坪木　和久	教授	気象学の中でも特に雲や降水に関わる物理過程，降水や雲のメソ気象学，豪雨・豪雪の気象学など，雲・降水を主体とした気象学・大気物理学を研究しています。主な研究対象は台風，梅雨に伴う豪雨，積乱雲と竜巻，冬季の降雪などです。こうした現象について，観測，データ解析，コンピューターシミュレーションなどによる研究を行っています。	tsuboki(at)rain.hyarc.nagoya-u.ac.jp
		高橋　暢宏	教授	雲・降水の空間分布，時間変動，構造およびそれらのメカニズムに関して，全球的には衛星観測により，またアジアや日本などのある特定の領域については，衛星と地上レーダを用いた観測により大気水循環に関する観測的研究を行っています。これらを行うために新しい衛星センサの開発や検証なども行います。	ntaka(at)nagoya-u.jp
		増永　浩彦	准教授	地球気候の成り立ちについて，主として衛星データを用いた雲・降水システム の観測的理解を深める見地から研究しています。集中豪雨の事例解析といった 局所的・突発的な気象の研究とは立場を異にし，広域の大気力学・熱力学の役 割を重視した現象解明を目指しています。同時に，観測データとの比較解析に 基づく数値モデルの検証研究や，衛星データ解析アルゴリズムの開発も行っています。	masunaga(at)nagoya-u.jp
		篠田　太郎	准教授	湿潤アジア域や西太平洋域を対象として，雲・降水システムの内部構造や発達・維持過程を観測と数値モデルを用いて研究しています。梅雨前線や台風に伴う 豪雨について，強い降水をもたらす最小単位である降水セルから，豪雨をもた らす大気環境場まで，様々な時間・空間スケールでの解析を行っています。関 係する雲物理過程，大気境界層過程，衛星データを用いた数値モデルの検証手法の研究も進めています。	shinoda(at)hyarc.nagoya-u.ac.jp
	海洋学	相木　秀則	教授	環境・災害問題についての数値シミュレーションを行いながら，大気・海洋・ 波浪（海面の風波やうねり）結合モデルについての技術開発と基礎研究を進め ています。海洋中の各種波動の解析研究も行っています。特にエルニーニョ現 象やインド洋ダイポールモード現象のような気候変動において，赤道域の波動が果たす役割に注目し，そのエネルギー伝達経路の同定を目指しています。	aiki(at)nagoya-u.jp

【地球環境科学専攻　大気水圏科学系】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

分野名		指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を＠に変更してください。
地球水循環科学	水文気候学	檜山　哲哉	教授	地球温暖化の影響が懸念される北極域，シベリア，モンゴル，アラスカにおける大気水循環と陸域水循環を研究しています。また，二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの動態を観測し，それらのデータ解析を行っています。さらに，国際的な地球環境研究のプラットフォーム（Future Earth）に関わりながら，社会水文学の視点での超学際研究を推進しています。	hiyama(at)nagoya-u.jp
		栗田　直幸	准教授	水循環情報を保持する化学トレーサーを活用して，地域スケールから地球規模スケールに至る様々なスケールで起こる水循環の諸課題を解明する研究に取り組んでいます。特にアジアおよび南極を主要な研究対象地域とし，気候変化が水循環に及ぼすメカニズムの解明を目指しています。研究手法は，野外観測，化学分析，データ解析，数値実験を組み合わせて利用しています。	kurita.naoyuki.n5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
		藤波　初木	講師	多様な地表面状態を有するアジアにおける雲・降水の時空間変動とその変動要 因を，衛星データ，全球大気再解析データ，現地観測データを用いて解析的に研究しています。日変化，熱帯擾乱，季節内変動，季節変化，年々変動及び長 期変化傾向など様々な時間・空間変動の実態解明とその変動プロセスの理解を通して，地球の気候システムの理解を目指します。	hatsuki(at)nagoya-u.jp
	大気化学	持田　陸宏	教授	雲凝結核としての働きなどを通して水循環に関わる大気微粒子（エアロゾル）に着目し，化学を基盤とする野外観測・室内実験研究によって，その性状や動態，役割の解明を目指しています。これらの研究では特に，大気輸送の視点を取り入れながら，エアロゾルの性状と化学組成の関係や，大気反応に伴う生成・変質を明らかにすることを重視しています。得られる成果は，エアロゾルの水循環に対する役割のほか，大気質・気候に対する影響の理解にも寄与すると考えられます。	mochida(at)isee.nagoya-u.ac.jp

＊環境学研究科連携教員

主指導教員が連携教員である大学院生は，本研究科専任の教員から必ず副指導教員を選ばなければならない。
研究指導は，国立環境研究所（茨城県つくば市）もしくは総合地球環境学研究所（京都市）と名古屋大学で実施される。

【都市環境学専攻　持続発展学コース】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

コース	専門領域	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を＠に変更してください。
持続発展学	脱炭素・安全・スマート社会	中村 友昭	教授	海岸工学，構造物の耐津波性能評価，浮体の波浪動揺特性，海底地盤の波浪応答， 海岸侵食対策，波力発電	nakamura.tomoaki.e9(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://www.coast.civil.nagoya-u.ac.jp/
		岩松　将一	准教授	持続可能な都市社会のための資源利用，物質変換技術の開発，グリーンケミストリー，有機合成化学	iwmt(at)urban.env.nagoya-u.ac.jp http://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/iwmt/index.htm
	マテリアル・エネルギーデザイン	日比野　高士	教授	未利用・廃棄物資源の再利用，水素社会に向けた水素製造と燃料電池発電・蓄電，大気・土壌・水質のモニタリング・浄化技術	hibino(at)urban.env.nagoya-u.ac.jp https://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/~hibino/index.html
		ジンチェンコ　アナトーリ	准教授	廃プラスチック・廃棄バイオマスの再利用、リサイクル技術、高分子材料、環境材料、地盤改良技術、水質浄化技術、ナノテクノロジー	zinchenko(at)urban.env.nagoya-u.ac.jp https://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/suschem/
		長尾　征洋	准教授	バイオマス資源の有効利用，環境負荷物質の電気化学的処理	nagao(at)urban.env.nagoya-u.ac.jp https://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/~hibino/index.html
	環境システム・ストック型社会	谷川　寛樹	教授	マテリアルストック・フロー分析，物質循環分析・評価，低炭素都市づくり，GISによる環境解析・モデリング	tanikawa.hiroki.z7(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/ensap/
		白川　博章	准教授	環境と経済の地域相互依存性評価，都市環境管理の効率性評価，環境政策の経済的評価	shirakawa.hiroaki.p8(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/ensap/
		白木　裕斗	准教授	気候変動緩和策の技術・経済的評価，エネルギー消費行動分析，数理モデルを用いた電力システム・エネルギーシステム分析	shiraki.hiroto.g4(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/shiraki/
		平山　修久	准教授	上水道工学，危機管理・事業継続マネジメント，水道管網システムの機能評価モデル構築，災害廃棄物マネジメントシステム開発，災害環境分野の人材育成手法	hirayama.nagahisa(at)nagoya-u.jp https://hirayamalab.com/
		一ノ瀬　俊明＊	客員教授	都市大気・熱環境のモニタリング・モデリング，アジアにおける環境変化の解析・モデリング	toshiaki(at)nies.go.jp
		南齋　規介＊	客員教授	地球温暖化，資源管理，システム分析	nansai.keisuke(at)nies.go.jp
	地圏環境・リスクマネジメント				
	国土・都市・モビリティデザイン	三輪　富生	教授	次世代モビリティと交通計画，住民主体による交通計画，交通行動分析，交通需要予測，交通シミュレーション	miwa.tomio.n7(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://sites.google.com/site/tomiomiwaj/home
		井料　美帆	教授	交通工学，歩行者交通，自動車・歩行者交通流シミュレーション，交通安全，マルチモーダルな道路計画設計，交通運用	iryo.miho.p5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

注１）＊の教員は連携教員である。主指導教員として連携教員を希望する者は，加えて本研究科専任の教員から必ず副指導教員を選ばなければならない。
連携教員は名古屋大学以外の大学・研究所等で勤務しているため，研究指導はその所属先と名古屋大学の両方で実施される。教育研究指導の進め方は，主・副指導教員と相談のうえ決定される。以下にその典型的な例を示すが，ほかに多様な形態が想定されるので，連携教員を主指導教員に希望する者は，事前に必ず希望する主指導教員と相談すること。

博士前期課程 1 年次：講義受講（主に名古屋大学で実施）

博士前期課程 2 年次：連携教員の所属先でのセミナー，研究指導

博士後期課程：連携教員の所属先でのセミナー，研究指導

【都市環境学専攻　建築学コース】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

コース	専門領域	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
建　築　学	デザイン・計画学	小松　尚	教授	建築計画，居場所論，既存建築の利活用	komatsu.hisashi.v1(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://komalabremote.wixsite.com/komalab
		恒川　和久＊	教授	建築計画，環境デザイン研究，キャンパス計画，ファシリティマネジメント	tsunekawa(at)cc.nagoya-u.ac.jp
		登谷　伸宏	教授	日本建築史，日本都市史，歴史的建造物の調査研究	toya.nobuhiro.s3(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
		堀田　典裕	准教授	建築設計および建築意匠（近現代における建築・都市デザイン分析）	hotta.yoshihiro.g2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
		宮脇　勝	准教授	都市計画，アーバンデザイン，景観計画，都市再生，まちづくり	masaru.miyawaki(at)outlook.com https://urban-lab.wixsite.com/home
		李　燕＊	講師	建築計画，キャンパス施設計画，図書館計画，施設再編	li.yan.t2@f.mail.nagoya-u.ac.jp
	環境工学・設備工学	飯塚　悟	教授	温熱環境，空気環境，風環境，室内環境，屋外環境，都市環境，市街地火災，建物火災，数値流体力学	iizuka.satoru.j8(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
		鵜飼　真貴子	准教授	建築設備，自然エネルギー・未利用エネルギー，システムの最適運転制御	ukai.makiko.d5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
		齋藤　輝幸	教授	環境心理・生理，温熱環境評価，空調・換気評価，省エネ対策	saito(at)nuac.nagoya-u.ac.jp
		田中　英紀＊	教授	建築設備，建築環境計画，都市・建築の省エネルギー，エネルギーマネジメント	tanaka.hideki.j2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	構造工学・材料工学	五十嵐　豪	准教授	建築材料学，セメント化学，地球化学，分析化学	igarashi.go.p3(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://hp.nuac.nagoya-u.ac.jp/bmeste/
		尾崎　文宣	教授	構造耐火，構造力学，鋼構造，火災工学，信頼性工学	ozaki(at)nuac.nagoya-u.ac.jp
		木村　俊明	教授	建築構造，構造設計，構造最適化，シェル・空間構造	kimura.toshiaki.v3(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
		長江　拓也＊	准教授	建築構造，耐震工学	nagae.takuya.h9(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/data/nagae/
		日比野　陽	准教授	鉄筋コンクリート構造，耐震工学	hibino.yo.d7(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp https://hp.nuac.nagoya-u.ac.jp/bmeste/
		護　雅史＊	教授	耐震構造，地震工学，地震防災，基礎構造，地盤と建物の動的相互作用	mori.masafumi.d5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

注）＊の教員は，協力教員である。

【社会環境学専攻】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

＊印が付いている教員を指導教員として希望する場合は，志願理由書の「指導教員名」欄に教員名及び講座名(志望分野名)を明記すること。

講座名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
環境政策論	三上　直之	教授	環境社会学，科学技術と社会，環境ガバナンス，市民参加，ミニ・パブリックス	mikami.naoyuki.w2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	丸山　康司＊	教授	環境社会学，環境倫理，科学技術社会論	ym(at)nagoya-u.jp
	中野　牧子＊	教授	環境経済学，生産性・効率性分析	nakano.makiko.a2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	高橋　誠＊	協力教員 (教授)	社会地理学，農村・農業政策，災害・防災制度	makoto.takahashi(at)nagoya-u.jp
	涌田　幸宏＊	協力教員 (准教授)	新制度派組織論，企業家活動，持続可能な社会と企業	wakuta(at)info.human.nagoya-u.ac.jp
	室井　研二＊	協力教員 (教授)	災害社会学，地域社会学，都市と環境の社会学	muroi.kenji.w9(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
経済環境論	松本　睦	教授	都市経済学，地域経済学，公共経済学，地方財政，租税競争	matsumoto.mutsumi.n5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	涌田　幸宏＊	准教授	新制度派組織論，企業家活動，持続可能な社会と企業	wakuta(at)info.human.nagoya-u.ac.jp
	中田　実	准教授	環境経済学，経済成長論	nakada.minoru.j5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	中野　牧子＊	協力教員 (教授)	環境経済学，生産性・効率性分析	nakano.makiko.a2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp

【社会環境学専攻】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

＊印が付いている教員を指導教員として希望する場合は，志願理由書の「指導教員名」欄に教員名及び講座名(志望分野名)を明記すること。

講座名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
環境法政論	野村　康	教授	環境政治，環境教育，政策過程，民主化，環境ガバナンス，NGO	nomura.ko.n8(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	大野　智彦	准教授	環境ガバナンス，環境政策，河川政策，政策過程	ohno.tomohiko.c1(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
社　会　学	室井　研二＊	教授	災害社会学，地域社会学，都市と環境の社会学	muroi.kenji.w9(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	山根　純佳	教授	ジェンダー論，再生産・ケア労働，市民社会論	yamane.sumika.g1(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	上村　泰裕	准教授	福祉社会学，比較社会学，アジアの社会政策	kamimura(at)nagoya-u.jp
	福井　康貴	准教授	社会階層論，経済社会学，労働社会学	fukui.yasutaka.p5(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	吉村　真衣	講師	環境社会学，地域社会学，文化遺産の社会学	yoshimura.mai.s2(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	谷川　彩月	講師	環境社会学，食と農の社会学	tanikawa.satsuki(at)gmail.com
	丸山　康司＊	協力教員 (教授)	環境社会学，環境倫理，科学技術社会論	ym(at)nagoya-u.jp

【社会環境学専攻】2027年度の指導教員・教育研究内容の一覧

＊印が付いている教員を指導教員として希望する場合は，志願理由書の「指導教員名」欄に教員名及び講座名(志望分野名)を明記すること。

講座名	指導教員名	職名	教育研究内容	e-mail address ／ HP address ※連絡の際には，(at)を@に変更してください。
地　理　学	高橋　誠＊	教授	社会地理学，農村・農業政策，災害・防災制度	makoto.takahashi(at)nagoya-u.jp
	今里　悟之	教授	文化地理学，農山漁村の社会・民俗・宗教，集落住民の環境認知	imazato.satoshi.z3(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	伊賀　聖屋	准教授	人文地理学，グローバリゼーション，食と農，ネットワーク	iga.masaya.p0(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp
	齋藤　仁	准教授	自然地理学，地形学，地理情報科学	saito.hitoshi.b7(at)f.mail.nagoya-u.ac.jp